



◀ガンパロー三唱をすすめる大塚部会長



## 全県のけん引役となり販売額25億円を目指す

ねぎ部会

秋田県産ねぎの生産拡大・販売強化に向けた「秋田県産ねぎGo!Go!25億円必達大会」が5月11日、秋田市で開かれ、JAや部会、県、市場関係者ら約150人が参加しました。

秋田県では米依存からの脱却を目指し、野菜や花きなどの園芸品目の生産に力を入れています。「目指せ！えだまめ日本一」「しいたけ販売三冠王」事業に続き、作付面積、販売高も右肩上がりの「ねぎ」についても規模拡大を図りながら販売対策と販売促進に取り組んでいきます。

県産ねぎの29年度の販売額は21億1,426万円となっており、そのうちJAが14億2,353万円と県全体の7割近くを占めており、販売額25億円達成するために大きな役割を担っています。佐藤組合長は「品質を重視した生産活動で、市場と産地の信頼関係を大切にしながら有利販売をし、全国の消費者に県産ねぎを届けたい」と話しました。

大会では、佐藤営農企画課長が「白神ねぎ」の10億円販売達成の取り組みについて紹介したほか、県産ねぎの発展に尽力したとして当JAねぎ部会が表彰されました。

## 各地区から自慢の健苗が集まる

稲作部会

稲作部会（鎌田文尋部会長）は5月10日、苗の生育確認と生産者の育苗管理技術向上を目的に、管内3地区合同の健苗コンクールを能代営農センターで開きました。

コンクールには能代地区19点、二ツ井地区9点、藤里地区3点の計31点の健苗が出品され、営農指導員や地域振興局普及課職員らが、葉の色や根の張り具合、苗揃えなど審査し、特に優れた健苗10点が絞り込まれました。その後、発根長や乾物重などを測定した結果、茂呂誠さん（二ツ井町・種）の苗がみごと最優秀賞に輝きました。優秀賞・優良賞は以下の通りです。

▽優秀賞＝飯坂敏範、斉藤 守、大塚忠之、多賀谷秀弘  
▽優良賞＝安井鐘悦、桜庭文行、戸松博美、落合宏美、小栗和夫



▲審査員が1点1点厳しく審査



▲生育状況を各圃場で確認

## 生育の確認と病害虫の防除徹底を呼びかける

きゃべつ部会

きゃべつ部会（工藤武一郎部会長）は5月23日、生育確認と今後の管理を検討するため、きゃべつ現地研修会を開きました。

生産者やJA、山本地域振興局職員ら約20人が参加した研修会では、生産者の圃場3か所を巡回し、生育状況などを確認・指導しました。巡回した山本地域振興局職員からは「5月中旬の集中豪雨で、日照時間が少なく湿度が高い状況となっており菌核病やべと病の発生が予想される。殺菌剤の予防散布をし、早めの病害対策をお願いしたい」と呼び掛けました。その後の栽培検討会では、今後の管理の確認や対応策、収穫時期などについて話し合いました。